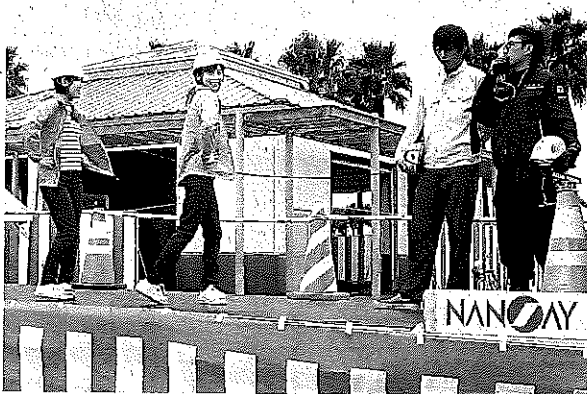


作業服を着てポーズ 鹿児島市で土木フェスタ

大型車の荷台を舞台に作業服姿を披露したファッションショー18日、鹿児島市のマリンポートかごしま



「土木フェスタ」が18日、鹿児島市のマリンポートかごしまであつた。建設機械の試乗体験や展示、作業服のファッションショーを

家族連れらが楽しんだ。「土木の日」の11月18日前後に関連団体が毎年開いている。ショーには11企業・

団体の男女17人が登場した。最年少の岩野仁祐さん(13)は指宿市に居る。建設会社を営む父から借りた服。「重機を操る祖父、父の姿が憧れ。この仕事のかっこよさをみんなに伝えたい」と、早くも将来の担い手の自覚を見せた。

最後にモデルたちが勢ぞろいして「鹿児島の未来を一緒につくりたい」と呼び掛けた。

(小手川美子)

身近な存在伝えよう

2017土木フェスタ

建設マン☆ファッションショー



作業着をアピールするモデルたち。鹿児島市のマリンポートかこしまで

建設現場で目にする作業着のファッションショーが18日、鹿児島市の土木フェスタ会場であった。業界が身近な存在であることを伝えるための工夫に現場者は関心を持って見つけた。初開催とあっていくつかの課題は残したものの、今後の継続にも期待が寄せられる。(中間健治・情報開発部)

建設現場で目にする作業着のファッションショーが18日、鹿児島市の土木フェスタ会場であった。業界が身近な存在であることを伝えるための工夫に現場者は関心を持って見つけた。初開催とあっていくつかの課題は残したものの、今後の継続にも期待が寄せられる。(中間健治・情報開発部)

「かっこ良さ」アピール

「かっこよさを向上させるプロジェクトは緒に就いたばかり。現場に出入りする

建設現場で目にする作業着のファッションショーが18日、鹿児島市の土木フェスタ会場であった。業界が身近な存在であることを伝えるための工夫に現場者は関心を持って見つけた。初開催とあっていくつかの課題は残したものの、今後の継続にも期待が寄せられる。(中間健治・情報開発部)



青年部会の山本会長

に、その「かっこよさ」が来場者に伝わったのかは気になるところだ。フェスタのサブタイトルに「体験しようよー土木の世界」とある。体験しようよーというのは、呼び掛けでありこの世界への「お誘い」だ。つまり、今回この企画が「土木の世界」を身近に感じてほしいという願いを改めて意識させてくれた。作業着と呼ばれること

の多い服装にスポットライトを当てる意義は大きい。その世界で働く人がどんな制服を着ているのかは、重要なことであり「身近に感じてもらう」ための入り口になる。初挑戦とあってモデルの確保に苦慮したが、山本会長は「普段黒子に徹している。たまにスポットライトを浴びても良いのでは」と企画をやり切った表情で笑顔を見せた。また、「建設業はかっこいい仕事。憧れる仕事であるべき」との信念がある。だから「見た目(身なり)もかっこよくしたい」と主張する。

これらの課題を乗り越え、人気投票を取り入れるなど、来年以降の盛り上がりために期待したい。青年部会の挑戦は、業界を身近に感じてもらうための模索であり格闘だった。

に、その「かっこよさ」が来場者に伝わったのかは気になるところだ。フェスタのサブタイトルに「体験しようよー土木の世界」とある。体験しようよーというのは、呼び掛けでありこの世界への「お誘い」だ。つまり、今回この企画が「土木の世界」を身近に感じてほしいという願いを改めて意識させてくれた。作業着と呼ばれること

の多い服装にスポットライトを当てる意義は大きい。その世界で働く人がどんな制服を着ているのかは、重要なことであり「身近に感じてもらう」ための入り口になる。初挑戦とあってモデルの確保に苦慮したが、山本会長は「普段黒子に徹している。たまにスポットライトを浴びても良いのでは」と企画をやり切った表情で笑顔を見せた。また、「建設業はかっこいい仕事。憧れる仕事であるべき」との信念がある。だから「見た目(身なり)もかっこよくしたい」と主張する。

これらの課題を乗り越え、人気投票を取り入れるなど、来年以降の盛り上がりために期待したい。青年部会の挑戦は、業界を身近に感じてもらうための模索であり格闘だった。